

事例7-2

取組名	空き家の解消と防災・交流の拠点整備		
町会名	みなみかみよこたち 南上横田町町会（東部地区）	町会 データ	・人口／135人 ・世帯数／78世帯 ・高齢化率／37.78% ・町会加入数／66世帯
取組概要	○ 地元事業所との連携により、長年放置されていた空き家を解体し、跡地に湧水を利用したビオトープを整備 ○ 防災や交流の拠点として活用を図るもの。		

背景・課題

- ・ 老朽化した空き家が長年放置され、防犯・防災面での不安や景観の悪化が問題となっていた。
- ・ 高齢化や住民同士のつながりの希薄化により、交流の場や災害時の拠点が求められていた。
- ・ 地域内には湧水やホタルが生息する自然環境があり、これらを地域資源として活かせる可能性があった。

経過・取組内容

- ・ 町会長（地元事業所会長）の発案により、空き家所有者の理解を得て建物を解体し、約 400 m²の用地を確保した。
- ・ 町会、地元事業所、建築士事務所協会が連携し、井戸の掘削や水路整備を行い、湧水を活かしたビオトープを整備した。
- ・ ビオトープにはメダカやフナが生息できる環境を整え、ホタル観察ができる施設を設置するほか、ベンチや植栽も配置し、自然と親しみながら憩える空間とした。
- ・ 実施にあたっては、町会長が中心となり、土地の所有者や地域内の事業者、専門団体など多様な関係者に働きかけ、協力体制を構築
- ・ 新たな空間は、町会の行事や交流の場として活用するとともに、災害時には湧水を活用した避難・活動拠点としての活用を想定し、隣接町会との合同防災訓練も実施した。
- ・ 公園内に設けた井戸は、市の「災害時協力井戸」に登録し、災害時の地域住民の生活用水としての活用を図る。

成果・今後の展望等

- ・ 危険な空き家が解消され、地域の安全性が向上した。
- ・ 憩い、自然観察、多世代交流、防災など多様な役割を担う地域拠点が創出された。
- ・ 今後は、防災訓練や交流行事、環境学習などを通じて、さらなる活用と地域コミュニティの活性化により、顔の見える関係を築いていきたい。
- ・ 本取組みでは、新たな土地を確保したが、町内公民館や公園など既存の地域資源を活かし、新たな拠点を創出することも可能と考える。



空き家跡地に整備したビオトープ

【ポイント】

- ▼ 地域内の事業者等と連携し、地域資源を活かした新たな交流拠点を創出